



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”の登場人物
【シャルロット】

2026年10月28日(水)
株式会社ロッテホールディングス

愛知県豊川市、(一社)豊川市歯科医師会、ロッテ 「豊川市民の歯と口の健康づくりの推進に関する連携協定」セレモニー実施

株式会社ロッテ(東京都新宿区 代表取締役社長執行役員:中島 英樹 以下 ロッテ)は2026年10月23日(金)に、豊川市(愛知県豊川市 市長:竹本 幸夫)、一般社団法人 豊川市歯科医師会(愛知県豊川市 会長:星野 正英、以下 豊川市歯科医師会)と「豊川市民の歯と口の健康づくりの推進に関する連携協定」(2026年6月1日(月)締結、ロッテの口腔に関する連携協定として30例目)のセレモニーを実施いたしました。

豊川市民の口腔内環境の維持・改善により、健やかで豊かな人生を送れるために三者が連携・協働し、歯と口の健康づくり推進に取り組んでまいります。



2026年10月23日(金)豊川市役所で実施された協定締結式の様子
(左から)豊川市歯科医師会 星野 正英会長、豊川市 竹本 幸夫市長、ロッテ 谷本 英之

●本協定の主な内容

- (1) 歯と口の健康づくりを通じて豊川市が実施する各種事業に関すること。
- (2) 市民の歯と口の健康づくりの推進に関すること。
- (3) 「噛むこと」の大切さと正しい知識の普及啓発に関すること。
- (4) 口腔機能の獲得、維持及び向上のための正しい知識の普及啓発に関すること。
- (5) 災害時における物資提供等も含めた被災者支援に関すること。
- (6) その他本目的を達成するために必要な事項に関すること。

*ロッテは、1948年の創業以来培ってきた「噛むこと」や「キシリトール」などを、様々なツールとして活用することで、豊川市民の歯と口の健康づくりに貢献していきます。

⇒次のページに協定締結式の概要とロッテ 名古屋第二支店 谷本 英之のコメントを掲載しております。



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”の登場人物
【シャルロッテ】

●協定締結式

1. 実施日 2026年10月23日(金)
2. 実施場所 豊川市役所
3. 出席者 豊川市 市長 竹本 幸夫
豊川市歯科医師会 会長 星野 正英
ロッテ 名古屋第二支店 谷本 英之

●ロッテ 名古屋第二支店 谷本 英之コメント

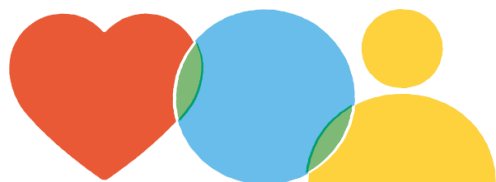
ロッテの社名は、ドイツの文豪ゲーテによる名作「若きウェルテルの悩み」の主人公が想いを寄せる「シャルロッテ」に由来します。多くの方に親しまれている「お口の恋人」というコーポレートメッセージには、「永遠の恋人」と言われるシャルロッテのように、いつまでも皆様から愛される存在でありたいという想いが込められています。

コーポレートメッセージ「お口の恋人」の通り、チューインガムの機能を通じて「お口の健康」をサポートし、皆様がいっまでも幸せに暮らせる未来を目指します。

今回、豊川市が目指す「もっと豊か ずっと健やか わたしとあなたでつくる健幸とよかわ」の実現を図ることを目的に、三者協定を締結しました。オーラルフレイル対策や、成人の方々を対象とした歯と口の健康啓発活動、幼児期の口腔機能の発達や歯の健康維持など全年齢的な取り組みについて、ロッテ独自の強みや技術を活かし、皆様の健康づくりの推進に貢献したいと考えております。

当社のサステナビリティ目標「[ロッテミライチャレンジ 2048](#)」では、「噛むこと」による健康増進の普及を目標のひとつに掲げており、「噛むこと」と健康に関する研究と啓発活動を推進しています。また、キシリトールを用いた幼児期の歯の健康維持などの活動にも取り組んでいます。

さらには、災害発生時の二次災害による健康被害軽減対策のため、口腔の健康を守るツールとしてキシリトール配合のガムやタブレットをご提供させていただくなど、物資提供等も含めた被災者支援に関しても実施してまいります。



ロッテ ミライ
チャレンジ 2048

創業100周年までに、未来のために実現したいこと

6つのマテリアリティと目標



2028年度目標

- 噛むことによる健康増進の普及に努め、咀嚼チェックガムによる咀嚼回数を年100万回以上に増やす

2038年度目標

- 噛むことによる健康増進が当たり前の社会を実現する
- 製品・サービスをウェルビーイングに貢献できるようアップデートさせる

2048年度目標

- ウェルビーイングに貢献する新たな製品、サービス、事業領域でしあわせな未来をつくる

参考資料 オーラルフレイルとは？

オーラルフレイルとは「お口のささいな衰え」のことを意味します。口腔機能のささいな衰えを放置したり、適切な対応を行わないままにしたりすると、栄養のバランスが崩れ、全身の衰えにつながると考えられており、“老化のはじまりを示す重要なサイン”として注目されております。

実際に、高齢者を対象に口腔機能をチェックし、継続的に調査をしたところ、オーラルフレイルの人は2年後の「身体的フレイル」、「サルコペニア」などの身体機能低下、そして4年後の「要介護認定」「死亡」のリスクが約2倍に高まるという結果※が報告されております。

※ 出典: Tanaka et al. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2018;73(12):1661-1667